



福崎町社会福祉協議会
令和3年1・2月号

今年の冬は、平年並みかそれ以上に寒いということです。年始、普段はニコニコ可愛い笑顔でトランポリンをし、みんなを癒してくれる、1歳の子どもたちですが、耐えられないほどの寒に泣いてしまいました。

いっぽう、2～3歳の子どもたちは、音楽に合わせ張り切ってトランポリンで踊り、体育館を駆け回ります。遊具を使った運動遊び・ブランコ、鉄棒、三輪車、ストライダー、風揚げ・・・パズルや、カルタ、ままごと・・・と、遊びのレパートリーも広がり、自分の体をかなり思い通りにコントロールできるようになってきました。「大きくなった」と、自分への誇りが育ってきたと感じます。また、自分の事はさておき、大人のお手伝いをしたい、小さい子の世話がしたい。「〇〇がしてあげる。」が口癖。時には正義が行き過ぎて泣き声が聞こえたら飛んで行き、近くにいるこどもをドン！（「口で言って！！」はまだ理解できないようです。「ここは大人に、任せて！泣いているお友だちに優しくしてあげて。」と、正義感を受け止めてあげる対応がいいですね。）さらに、子どもたちは、「おおきくなった！」ことを、ことあるごとにアピールします。【「髪の毛伸びたやろ。ブロッコリー食べたから！」】【「おおきくなったやろ。みとって！」と、高いところに登って得意満面！】etc,『大きくなったね！すごいね！』がとてもうれしいときです。だけど、転んでしまった時や、叱られたときは、「お兄ちゃんだね！」なんてそんな言葉は聞きたくない、「赤ちゃんになりたい」のです。「おおきくなったやろ！」と得意になる気持ち、「赤ちゃんになりたい～、甘えたい」気持ちの間で、揺れ動くこのころは、内面の揺れに寄り添う関わりが必要です。『すごい、カッコイイ！』と、心から認めてもらい、『よしよし～』と、甘える。どっちもその子・自分なのです。大人に寄り添ってもらいながら自立していくのです。それから、「大きい、小さい」「多い、少ない」がわかるようになり、玩具や好きな食べ物の独り占めもよく見られます。先日公園で家族3人分のお弁当を頑固に独り占めし、お箸で食べ始めたA君。2歳児の要求には、「二重構造」があると言われます。“ジブンデしたい”という「行為への要求」と、“自分の思いをみとめてほしい”という「自我の要求」があるということです。自分の思いを強く押し通そうとする2歳児にどう関わればいいのでしょうか。沢山ほしい時、沢山持てる経験・満足出来る体験をして、自分自身の気持ちが充分太っていることが大事だと言います。一見わがままを許すように見えますが、この時期の子育てを経験された方はお分かりでしょう。「イヤダ！」「モットシタイ！」「ゼンブホシイ！」と、頑固に我を通していた子が大きくなったら、優しく頼もしい子に育っていると感じられていることと思います。まずは頑張っって一人で食べようとしたのですから「いっぱい食べるんだね。頑張っているね。でも困ったら言ってね。」そのあと、「ママと弟にもちょうだいね。」と取り分けてもらったらよかったかな。と思ったり・・・。そうはいってもお母さんも人間です。虫の居所が悪いときもあります。だから、みんなで見んなの子をワイワイ見る場が必要です。まだまだ寒い日が続きますが、森のひろばや園庭開放の場を、うまく利用してください。お待ちしております。

トランポリンと森のひろば（第2体育館とスポーツ公園）10:00～ 予約なし

* 日時；1月8日、16日、22日、29日・2月5日、12日、19日、26日（金）

* 準備；お茶、タオル、親子とも上靴、子どもさんに応じて着替え

（新型コロナの感染状況により、実施できない可能性もあります。ご了承ください。）